

自立した持続可能な地域社会創造事業「地域づくりセミナーin上越」

2018年11月12日～13日／会場：あすとぴあ高田内みゆぜ雪小町、他

上越市で開催した今年の「地域づくりセミナー」講師は、「長良川流域をつなぐまちづくりの実践と成果に学ぶ」と題し、「長良川おんぱく」の蒲勇介事務局長をお招きしました。54名の参加者から積極的な質疑応答が交わされました。

天気にも恵まれた翌日の現地視察は、高田まちあるきを行い、その後、かみえちご山里ファン倶楽部の活動現場にお邪魔しました。

目次:

11月12日(月)13:00～

挨拶

(一財)新潟ろうきん福祉財団
上越市自治・市民環境部課長

研修会

「長良川流域をつなぐまちづくりの実践と成果に学ぶ」
講師 蒲 勇介氏
(長良川おんぱく 事務局長)

成果報告会「地域社会創造助成事業助成団体」

- ①(特非)平丸スケ細工保存会
- ②ひやくいちねん会
- ③だんだんど～も只見線沿線元気会議
- ④(特非)支援センターあんしん

交流会

挨拶

寺尾 仁 本助成選考委員長

11月13日(火)9:00～14:30

- ①(特非)街なか映画館再生委員会
- ②(特非)高田ごぜの文化を保存・発信する会
- ③(特非)かみえちご山里ファン倶楽部

挨拶



主催挨拶として、江花理事長は、「地域づくりセミナー」は、助成事業の成果報告もかねていることを踏まえ、これまでの助成団体にヒアリングし、5年間のまとめを行っていることを紹介しました。



地元上越市より、自治・市民環境部岡村課長から歓迎の言葉とともに、上越市でも持続可能な地域づくりに様々な取り組んでいることを報告いただきました。

研修会 長良川流域をつなぐまちづくりの実践と成果に学ぶ

岐阜県民である蒲さんは、「何もないところ」という地域コンプレックスをなんとかしたいという思いから、2003年フリーペーパー「ORGAN」を発行。その中で、伝統工芸品「水うちわ」と出会い、仲間と一緒にネットワークを広げていきました。

こうした活動の中で、地域住民や商店などの地域資源と、行政や観光協会といった組織、これまでまちづくりにかかわる機会がなかった若者や女性を結びつけるしくみとして「オンパク」が有効ではないかと思い、2011年に「長良川温泉博覧会実行委員会」を立ち上げました。

「長良川おんぱく2011」で、100の体験プログラムを揃えられたのは、それまでのネットワークあったからと振り返る蒲さん。「巻き込み型実行委員会」という手法で、チャレンジしたい人はどんどん仲間に加え、世代や所属が違ってモフラットに話し合いを進め、お互い

の強みを引き出し合うことを大切にしました。

「まちづくりの現場における若者や女性の意見を活かしたい」という思いで、蒲さんは、新潟に自腹で通い、場づくり・会議手法・ワークショップなどを学んだそうです。

オンパクで体験プログラムを実施する人にとって、マーケティングの絶好の機会であり、ここから新商品が生まれたり、起業につながっている事例も紹介していただきました。

その後、「実行委員会の立ち上げにかかる苦労」「資金調達の手法として、クラウドファンディングのやり方」「世代間のギャップを埋めるための工夫」など参加者からの様々な質問に、蒲さんから実践に基づいた回答をいただきました。



2017年度地域社会創造助成事業 成果報告会

「地域社会創造助成事業」は、3年間の応募が可能となっており、今回は継続であったり、高額助成を受けている4団体から成果報告を行っていただきました。

◆(特非)平丸スゲ細工保存会は、妙高市で、地域活性化につなげるためスゲ細工の保存・活用に取り組んでいます。2016年は、作業環境と効率化を図るため作業スペース改修工事と乾燥室の整備などに本助成金を活用しました。2017年度はこれに続く、宿泊研修やゲストハウス機能を持たせた施設改修を行い、新たな雇用の創出に向けた成果が発表されました。

◆ひやくいちねん会は、柏崎市で移住希望者のための宿泊施設を整備しました。期間中に、法改正があり、それに対応するためオープンが遅れたが、2018年度にその成果が期待したいと抱負を語りました。

◆だんだんど〜も只見線沿線元気会議は、魚沼市で「JR只見線」を活用した観光地域づくりに取り組んでいます。地域住民と共に、総合ガイドブックの作製に向けたワークショップを行い、地域の魅力再発見につながる成果が発表されました。

◆(特非)支援センターあんしんは、十日町市で2002年から障がい者の就労支援に取り組んでいます。天候に左右されず、室内でも仕事ができる水耕栽培の整備を行い、新たな仕事づくりの成果が発表されました。

地域社会創造助成事業に関する助成団体名、金額、事業内容はすべて「ろうきん財団」ウェブサイトから公開されています。

現地視察

上越地域の3団体の取り組みを視察しました。

まずは、(一社)雁木のまち再生の関由有子さんからガイドをお願いし、(特非)街なか映画館再生委員会が管理運営する「高田世界館」の活動を伺いました。1911年に芝居小屋「高田座」として開業後、何度か名称を変え、現在は、日本最古級の現役で営業する映画館として国の登録有形文化財や近代化産業遺産にも登録。当財団の「NPO等助成事業」も活用した改修と、地域住民の手によるユニークな運営に、参加者から質問が寄せられました。

雁木通りを歩きながら、次に(特非)高田ごぜの文化を保存・発信する会が管理運営する「ごぜミュージアム高田」の活動を伺いました。築80年となる雁木町屋を改修し、高田ごぜを全国に発信する日本初の資料館として2015年11月にオープン。当財団の「NPO等助成事業」として展示用ケースを購入し、貴重な資料を市民に公開しており、参加者も興味深く見学しました。

次に、車で40分ほど移動し、(特非)かみえちご山里ファン倶楽部が管理運営する古民家カフェ「平左衛門」にてカレーランチをいただきました。その後、上越市から受託している「水源森林公園」に移動し、市民ボランティアと運営する水源森林機能の啓発拠点としての役割を伺いました。

続いて「生活デザイン参考館」に移動し、当財団の「地域社会創造助成」を活用し、開発した「猫又印ノ鉦」の実物とメイキングビデオを鑑賞。最後に、里創義塾学舎にて、法人のミッションと全体事業に関する説明を伺いました。この他にも、同法人は、みそや漬物の加工所や、宿泊施設「霧山荘」などを地域住民とともに運営しており、その活動の幅に驚きをもった参加者から活発な質問が寄せられました。



(一財)新潟ろうきん福祉財団

新潟市中央区新光町6番地2

勤労福祉会館4階

電話: 025-288-5273

FAX: 025-288-5274

電子メール: info@zaidan-hukushi.or.jp